

七転八倒の沖ノ山 Mountain Ski

2004.01.31



種 目：山スキー
山 域：兵庫 - 岡山 - 鳥取
場 所：沖ノ山
日 時：04.01.31
天 候：曇り
メンバー：石野・横小路・玉田・大塚・大本・田代

特別天然記念木の樹海の七転八倒の沖ノ山山スキー
この時期にはめずらしく週末がまずまずの天候が続いている、先週に引き続き千種スキー場の駐車場から林道を詰めてルーファイしながら沖ノ山 1318m に照準を合わせる。



千種スキー場をバックにシール装着

7:55 千種スキー場Pスタート 0度 シール

シールを付けて広い峠越えの道をシールを付けて小雪降る中をルンルンで峠越峠へとサクサクと登っていく。ツボ足では有に膝まで入るが、さすがはスキーの威力でくるぶしまでしか沈まない、また6人の先頭交代なのでスピーディーに2本のトレースを行動して行くので楽しいことこの上ない。

8:10 1030m 峠越峠 滑降?

道の両斜面とも植林した杉を伐採しているので急峻なおいしいバーンが広がっているが、今日も長丁場なので一路先を急ぐ。峠からは下りになるのでシールを外し林道をス～イス～イとジャンクションまでの4kmを下っていく。

8:40 ジャンクション シール

左は大芽方面で右は素晴らしき大自然へといざなわれる林道が1kmほど続いている。

9:08 935m 林道終点

林道終点からは素晴らしきブナとミズナラの大木の原生林に囲まれて大自然に彷彿させられるシールでの登行が始まる。

雪に閉ざされた東屋や休憩所があり林道はここまでで終点となっている、ここからは夏道は登山道になっているのであろうが、それは雪に閉ざされて何



遙か彼方の稜線目指して・・・



ノートレースの林道をスタート



林道ジャンクション



沢沿いトラバース



急斜面にあえぐ

処にあるのか一向に分からない。さあここから地図読みのルーフアイの面白みである。

沢伝いにフワフワの雪にエッジとシールを巧みに絡み合わせながらトラバースし、スノーブリッジを渡って登りつめて行くのにはなかなか神経を使う所である、帰りはこのルートを滑ってこななければならないのだから、廻りの景色を頭に入れて帰りのスキールートを探りながら登っていく。

9:28 1000m 沢ジャンクション

ここから従順に左から来ている沢伝いに斜面をトラバース気味に登って行けば稜線ジャンクションにたどりつくのだが、そこは冒険心で目の前にある35度ほどの急峻な斜面にジグを切ってトレーニングがてらに登っていく・・・これも今年GWの富士山への登りの訓練につながるのである。

ここを登りつめるとだだっ広い平原のような所に出くわす・・・地図上ではばっちりと合っているがガスられればややこしいところである。しかし、大本はお構いなしにドンドンとややこしい小尾根を登っては下りで戦陣を切って突き進んでいく・・・さすがはGPS登攀である(すごい!!)

10:01 1050m 稜線到着

あ～あ、ややこしい。White Birdのマーカをブナの木に付ける。

素晴らしい景色をバックにシャッターを切る。今回は恵ちゃんのお初のデジカメの登場なのだ



スノーブリッジを探して渡る



急斜面でのジグに右往左往



急斜面を登る



霧氷のブナにいざなわれ一路山頂へ...

(^o^).

10:28 1090m 稜線ジャンクション

遠景の視界はないが、そのぶん天気が曇りがちで気温が低いのでブナ、ミズナラの小枝は霧氷になり、杉はモンスターとなって最高に素晴らしい自然界を楽しませてくれている。時折り太陽が顔を出すたびに歓声上がる。

10:50 1196mP 三角点

登っては滑りの連続で1170mからこのピークに達するまでみんなが「ワ～ッ！」と感動の言葉ば発するほどの雪世界に堪能する。目の前の斜面に雄大に聳えて立つブナの大木のが、時おり見せる太陽の輝きで霧氷に覆われた枝々をキラキラと輝かせて、まるで我々を手招きしているようにいざなってくれている。再びシール下りでブナの樹海にと飲み込まれていく。ここからはのんびりとしたガスられた稜線はしっかりとした地図読みが必須であるが、大本はGPSでガンガン進んでいく。

11:32 1260m 霧中行軍

いよいよ沖ノ山への登行が始まるがどんどんガスが濃くなり気分もどんよりしてくる。帰りはこのルートを通るのでしっかりと頭に滑降ルートを入れておきたいのだがそれもままならない(>_<).

11:45 1318m 沖ノ山山頂

山頂到着、しかし視界はガスに覆われて遠方を全く見渡せないが、ブナ林に覆われてその枝々にはびっしりと霧氷をたくわえている、私にとっては最高の山頂である。

早速にその霧に包まれた幽玄のブナ林を鑑賞しながら



シール滑るを楽しむ恵ちゃん



山頂はブナの樹海に覆われている



ブナ林をポールに見立てて滑降



登り下りでこれぞ播州の山スキー



滑っては登りの連続で体力勝負だ！



一列縦隊で急斜面に汗する



稜線ジャンクション

らの昼食タイムをとる・・・、が気圧の谷が通っているのだから、一段と冷え込み粉雪が降り出して寒さが身にしみるが、雪をかぶり霧に漂うブナ林は何事にもたとえがたい光景である。

14:20 林道到着

帰りはピストンなので忠実にトレースをたどって下るのだが、シールを外したのが山頂からの1km、そして稜線ジャンクションからの難しい急な小尾根からの沢沿いのトラバース・・・この滑りが沖ノ山縦走の唯一のスリリングな滑りである。

15:40 駐車場着

私を含めてみんな雪だるまになり程良く楽しいトレーニングになりました。

PS.

シールトレーニングもこの辺で、そろそろ滑降重視の山スキーに切り替えていこうか(^_^;)



稜線上は素晴らしい雪原が広がる



装備変更で大忙しだ！



ブナに囲まれて山頂でラーメンタイム